

ご愛読者の皆さまへ ~定期購読申し込みのお願い~

いつもThe Watch & Jewelry Todayをご愛読いただき、有難うございます。
これまで無料にてご愛読いただいていた皆様の郵送を順番にお止めさせていただいております。ご購読を希望する場合は、右のQRコードよりご登録をお願いいたします。定期購読料は、年間8500円です。宜しくお申し込み申し上げます。
□問い合わせ＝株式会社時計美術宝飾新聞社 (TEL: 03-3833-1886 FAX: 03-3833-1886)



保険のご相談は(株)東時へ 本社:03-5817-0353 西日本支社:06-6252-4477



●発行所 (株)時計美術宝飾新聞社
●編集発行人 藤井正義
〒110-0015 東京都台東区東上野1-26-2
ジュエラスタウン・オーラム508
TEL (03) 3833-1886 FAX (03) 3833-1717
<http://www.e-tkb.com>
毎月1日・15日発行
年間購読料8500円/1部450円
振替口座00190-3-57579

人生100年、長寿化時代の時間の捉え方
タイプのAI活用における多様な実態
「セイコー時間白書2025」

セイコーグループ(株)による6月10日「時の記念日」にちなんだ、生活者の時間についての意識や実態を探る「セイコー時間白書」が今年も発表された。
「人それぞれの豊かな時、自分らしい時間の過ごし方を願う」セイコーの理念に基づき、2025年問題が到来した今回は「長寿化による人生100年時代における時間の多様性」、浸透著しい「タイムパフォーマンス(タイパ)とAI活用」について探った。

人生100年時代、老後が長くなったと言われるが、老後についてどんな意識を持っているのか? 15歳~69歳の男女1,200人を対象に、人生100年時代における時間感覚について聞き、年代別の傾向を探った。
まず、老後に向けた意識や行動について聞くと、10代(75.0%)・20代(63.0%)では「特に考えたことはない」が最も多く、40代になると「具体的な行動はしていないが考え始めている」(41.0%)が4割、50代では「準備を始めている」(19.5%)が約2割と増えてい

る。「既に準備を完了している」は60代で10.0%と高くなるが、それでも10人に1人。人生100年時代、40代になると老後を意識し、50代で準備を始めるものの、60代で準備完了とまではいかないようだ。

逆に将来に対する意識を聞くと、「以前より将来について客観的になった」と思う人は全体の4

割(42.2%)だった。年代別に見ると、10代の58.5%が最も高く、20代は5割程度あるものの下がり始め、50代では30.0%にまで低下。しかし、60代になると44.0%と復調し、20代と同程度まで客観的に感じる人が増えている。50代までは将来を悲観することが多いものの、60代になると、「なんとかなるさ、大丈夫!」と思えているようだ。

タイムパフォーマンス(タイパ)が時間の使い方の選択基準となり、日常生活でのAI(人工知能)活用も増えている。効率化につながるタイパとAI、加速することで時間の価値がどう変化するか、まずタイパ意識について聞くと、60.4%が「タイパを意識して行動している」と答え、「タイパを重視する考え方は社会に定着」と答えた人も62.1%とどちらも60%を超え、2024年の調査結果(意識して行動58.0%、社会に定着60.5%)から微増傾向を示している。年代別で見ると、どちらも10代(行動69.5%、定着70.5%)が高くなっている。また、「何事もタイパを高め、時間効率を優先して生活したい」と答えた人は全体で54.3%だが、10代は64.5%と最も

高くなっている。
次にAIの活用について、「AI機能を使って時間効率を高めている」と答えたのは全体の30.3%、「時間効率を高めるためにChatGPTを使ったことがある」は31.1%で、いずれも前年の調査結果(AI機能22.2%、ChatGPT22.4%)より約8ポイント程度増加している。また、「プライベートでAI機能を使っている」と答えたのは全体の31.8%となり、AIが普段の生活でぐっと身近になっているようだ。年代別に見ると、「時間効率を高める」(57.0%)、「ChatGPTを使用」(64.5%)、「プライベートでAIを利用」(60.0%)と、いずれも10代のスコアが高く、AIとの親和性の高さが感じられる。

AIに対する考え方について、A or Bでの回答に絞り自分の日常生活でのAIの浸透について聞くと、全体では「浸透している」46.3%、「浸透してない」53.8%だが、10代では71.0%が「浸透している」と答えている。生産性については、全体の68.8%はAIの機能のおかげで生産性が「上がった」と答えているが、10代は78.5%、20代は75.5%と8割近くになっている。また、AIによって自分の存在意義に「疑問を感じる」は全体で43.1%だが、10代は61.5%と多くなっている。AIが身近だけに疑問を感じることも多いのかもしれない。

AIの利活用が加速する今の社会において、人間らしい時間とはどのようなものと思うか自由回答にしてみると、AIにより自分の幸福度が上がると答えた若い年代からは、「誰でも行えることはAIに任せればいい。友達との時間や家族との時間はAIでは代えが利かない」(男性20代)、「AIに基礎的なものをやってもらって、人が具体的なものへと作り上げる。AIを頼りながらも、絶対に人間にしかできないことがある。人との関わりを大事に自分の経験を高めていく時間」(女性10代)といった意見が寄せられた。AIにできることはAIに任せ、時間の効率化を図り、そこで生まれ

た貴重な時間を人にしかできないことに有効的に活用する、そのことがAI時代の人間らしい時間の使い方と認識されているようだ。

調査結果について「時間学」が専門の川誠氏(千葉大学大学院人文科学研究院教授)は、2024年はコロナ禍が収束して「やったー!」という感じだったが、今年はそんな浮かれた気持ちも落ち着き、いつものぼたぼたした毎日で、ぼうつしたいという願望が高くなっているよう。そんな2025年だが、今回の調査を見て、若い年代のポジティブさと中高年代のネガティブさの対比が気になった。学生たちを見ても感じるが、就職活動で売り手市場なこともあり、若い年代は将来に対して前向き。AIなど新しい技術が登場し社会が大きく変わることも、自分たちにとってはプラスの追い風と捉えているようだ。一方、40代・50代は、将来に對し不安を感じている。就職氷河期世代の40代は、経済的な影響が今でも大きいといわれるが、その40代より50代の方がより悲観的だ。彼らは高度経済成長の良

い時代を子どもの頃から知ってはいるものの、自分たちはバブル崩壊後に就職、これまでの良かった時代がどんどん失われ、確実だと思っていたことが不確実になっていく、その過程を体験しているから、将来を悲観的に捉えがちなのではないか。さらに定年延長や老後2000万円問題が叫ばれ、人生のゴールポストを勝手にずらされたように感じてしまう。手本とすべきロールモデルもないまま、いつまで働けばいいのか、でも働かないと先が見えない、と強く不安を感じるのが50代。40代はまだ定年を実感しないのでその辺りの不安はやや低く、逆に60代は現役をやり切った余裕があるので、世の中をポジティブに捉えることができるのかもしれない、と回答している。

「セイコー時間白書」の詳細は、<https://www.seiko.co.jp/csr/st-da/archive/2025/> で確認を。

一般社団法人日本ラボラトリーグロウンダイヤモンド協会(代表理事:伊藤拓也)は、IGI(International Gemological Institute)とのパートナーシップのもと、日本初となる「IGIラボグロウンダイヤモンド・プロフェッショナルトレーニング」を開催する。

同トレーニングは、8月7日(木)・8日(金)の2日間に集中型で行われ、IGIの正式なトレーニングを日本語で受講できる初の機会となる。IGIの専門講師による講義内容を、すべて日本語で丁寧に解説するので、語学の壁を感じることなく世界基準の知識を学ぶことができる。



プログラムは、天然ダイヤモンドを含む基礎知識から、ラボグロウンダイヤモンドの最先端生産技術、鑑別方法、グレーディング、改変処理、市場動向に至るまで、業界に必要な情報を網羅。修了者にはIGIより公式修了証が発行され、専門性の証明、企業やブランドの信頼の証明として活用できるとい

同講座はダイヤモンド・ジュエリー業界全体の関係者を対象としている。ラボ

日本初開催!
IGIラボグロウンダイヤモンド・プロフェッショナルトレーニング
(世界基準の知識を2日間で習得)

グロウンダイヤモンドの知識はもはやダイヤモンドジュエリーを扱う全ての企業にとって必要不可欠な時代になりつつある。実際、日本国内でもラボグロウンダイヤモンドを取り扱う企業やブランドは増加傾向にあり、消費者の認知も高まりつつある。そうしたなかで、正確な知識と対応力は何の企業にとっても消費者の信頼獲得に直結する重要な要素だ。そのため、このトレーニングコースはラボグロウンダイヤモンドを取り扱う企業はもちろん、ラボグロウンダイヤモンドの知識を得たい天然ダイヤモンド企業、ジュエリーブランド、個人事業主など様々な参加者を募集している。

▼一般社団法人日本ラボラトリーグロウンダイヤモンド協会は、日本国内におけるラボグロウンダイヤモンドの正しい理解と消費者からの信頼構築を目的として活動しており、同トレーニングはその取り組みの一環となっている。本トレーニングは、今後の業界において必要不可欠となる知識を短期間で習得できる大変貴重な機会と言える。

■開催概要、申込は以下URL、又はQRコードより
<https://www-jilgda.org/igi-training>

*4面関連

